



埼玉版スーパー・シティプロジェクト

市民参加DXによる まちづくりのヒント

株式会社Groove Designs
代表取締役 三谷 繭子



三谷 繭子
Mayuko Mitani

株式会社Groove Designs 代表取締役

大和建設株式会社 専務取締役

<その他活動>

一般社団法人アーバニスト 理事

シティラボ東京コネクター

広島県福山市在住

自己紹介

◎まちづくりコンサルタントとして

- ウォーカブルなまちづくりなどの支援
- 官民連携によるまちなか再生推進支援
- ほこみちプロジェクトディレクター など



公共空間を人の居場所に
まちなかに居られる空間づくり



まちの場づくりに市民が関わる
プロセスづくり



人中心のみちづくり
ほこみちプロジェクトの推進



公共空間を人の居場所に
まちなかに居られる空間づくり



自己紹介

◎地域に根付いた事業者として

- 建築・土木施工会社として地域の価値づくりに携わる
- 福山本通商店街でコミュニティ拠点運営
- 福山駅前広場協議会委員
- 福山市公園整備方針検討委員など



国内唯一の都市デザインDXの会社



都市デザイン・まちづくり専門家

×

行政・地域DX専門家

三谷 繭子
代表取締役



全国各地でまちなか再生プロジェクトや地域主導のまちづくりを支援。

一般社団法人アーバニスト理事

東 宏一
取締役



民間企業、政府CIO補佐官を務めたのち、デジタル庁プロジェクトマネージャー(デジタルサービス)

福岡市DXデザイナー
宇都宮市DX専門官

Groove Designsについて



Vision

まちにグルーブを生み出す

Mission

人とまちの関係性をデザインする

―地域・市民主体のまちづくり支援―



自己紹介



◎社会起業家として

□ 市民参加まちづくりのDX

□ 地域エンゲージメントプラットフォーム
my grooveの開発・提供

□ 2023年度、札幌市宮の沢地区地区でウォークアブルプロジェクトの実証実験



「地域に関わりたい」「協働でまちづくりに取り組みたい」と思う
多様な人々のまちとの接点・デジタル⇄リアルで参加できる環境づくり

本日のキーワード



#市民参加

#DX

#デジタルプラットフォーム

まちでの記憶や体験でつくられる「自分」



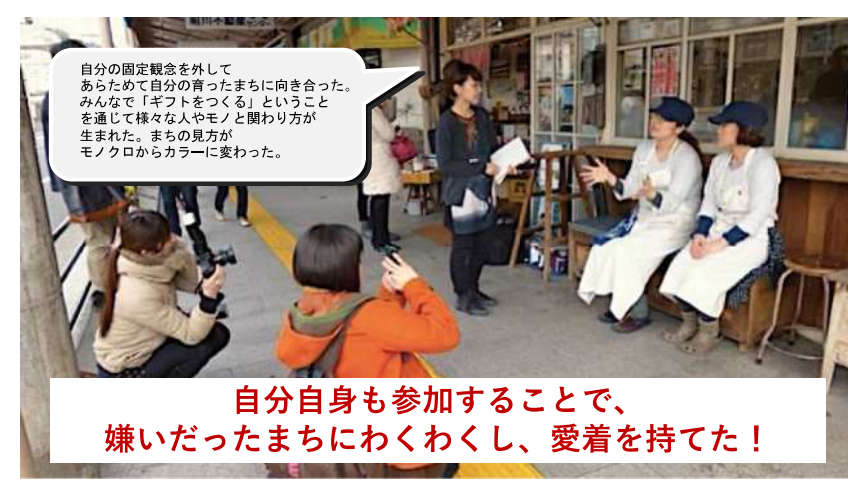
「まち」によってつくられるアイデンティティ



「まち」を媒介した関わりの中でのエンパワーメント体験



「参加」の体験を通じて自分のまちの見方が変わる





自分のようなちっぽけな存在では
すでにあるまちは変えられない。



誰かではなく自分が変えていける
かもしれないと思える！

自分が感じている課題感に蓋をし
て、顔を背けて暮らす。



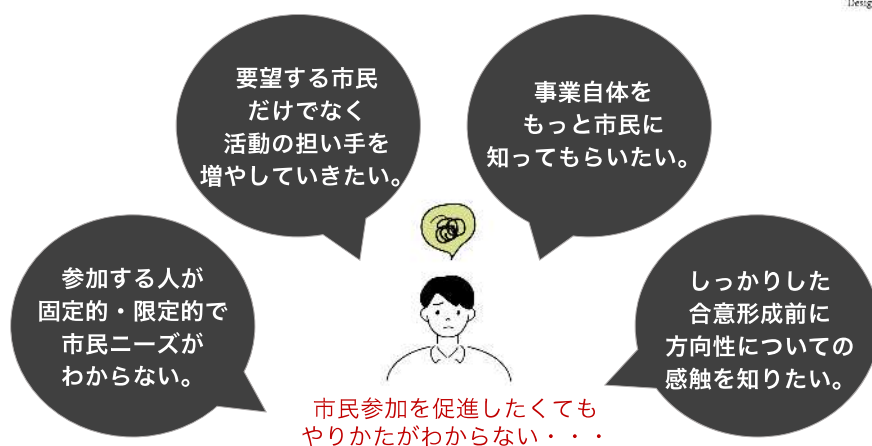
自分が感じていることを表明でき
る機会や関与できる方法があれば、
向き合ってみようと思える。

こんなまちなので、自分の暮らし
の質が低いのはしょうがない。

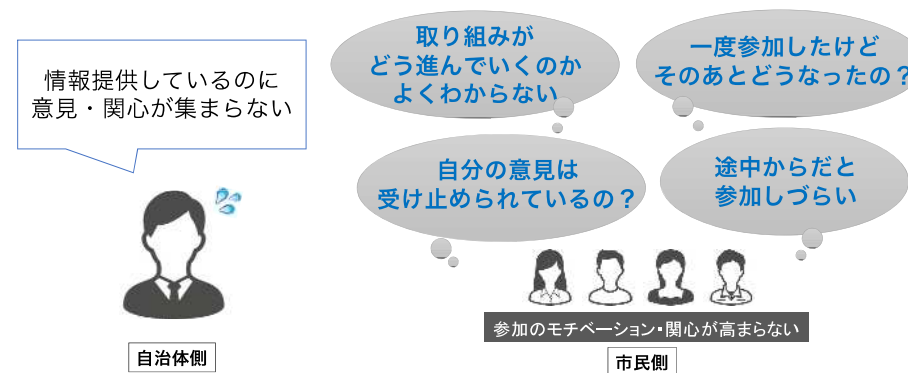


「まち」に参加することで自分自
身がわくわくして暮らせる！

19



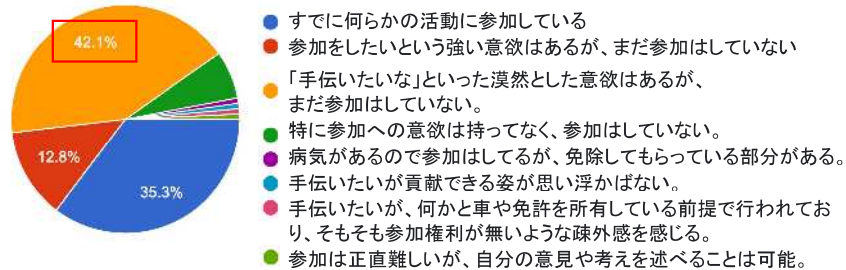
自治体側と市民側には、
思っているよりもずっと情報・認識の格差があります。



「手伝いたい」という淡い参加意欲を持つ方のアンケートデータ

参加意欲に関する設問では、「手伝いたいな」といった漠然とした意欲はあるが、まだ参加はしていない、という回答が42.1%と最も多い(=淡い参加意欲)。

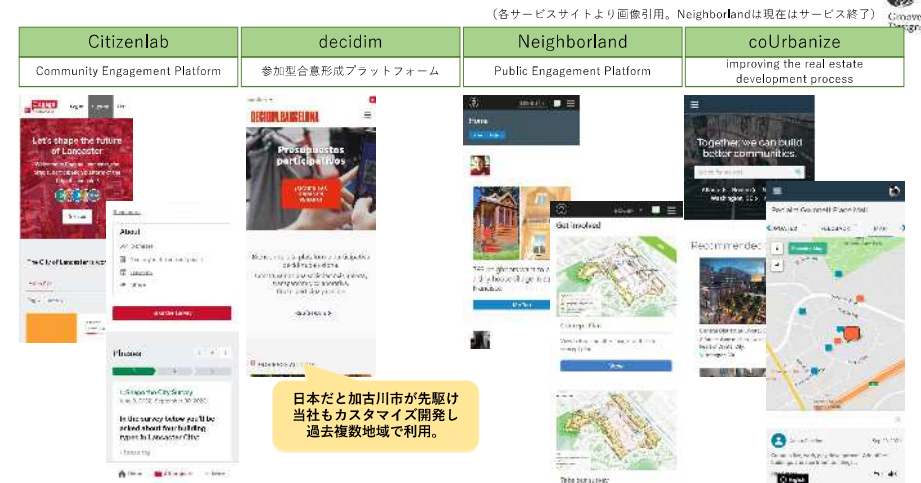
Q.地域や行政の活動へ参加することについて、現在どのような状態ですか？



※当社の独自アンケートから抜粋

23

市民参加 × デジタル、世界ではどんな動きをしている？



欧米では市民参加型プロジェクトでのデジタル活用が進みつつある

利用パターンは計画策定時の意見聴取や首長交替時の移行過程での政策アジェンダづくりなど様々。
目的としては市民へのエンゲージメント(主体的な参加意欲の強化)。
特に、アメリカではプラットフォーム活用は一般的になっている様子。

- ① **【機会の平等性】 参加の垣根をなくし、インクルージョンを実現する**
→人種、移民など特定セグメントに対するエンゲージメントができていないことの対応。
(日本で言えば若い世代、女性など?)
- ② **【前向きな空気感の醸成】 プロジェクトのブランドイメージを向上する**
→透明性や多様な参加機会により、「あのプロジェクトは市民の意見をちゃんと丁寧に聞きながらやっているよね」という空気感を醸成。
- ③ **【費用対効果】 ゼロベースでサイトを作るよりも早く、必要な機能がそろっている**
→ゼロから立ち上げるコストに比べ、必要な機能がそろったプラットフォームを利用する方が低コスト(かつ、効果的なエンゲージメントのために必要な伴走支援も得られる)。

27

地域との新たな関わりの機会となる「my groove」

多様な住民の、
まちへの関わりを生む

地域エンゲージメント
プラットフォーム
my groove

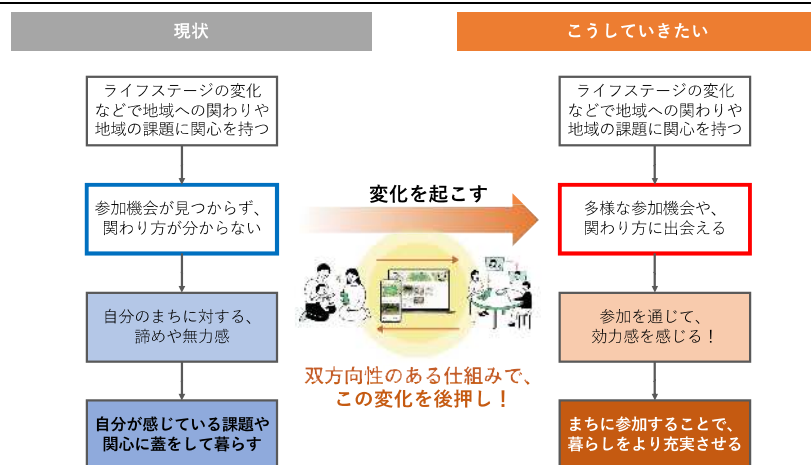


これまでの導入実績



全国で40以上の
プロジェクトを推進！
(2024年8月時点)

まちづくりの主体者への変化にむけて、リアルとデジタル両面で後押し



29

地域エンゲージメントプラットフォーム「my groove」

**オンライン参加を入口にリアルな活動参加へ
参加のハードルを下げなければ参加者は増えない。**



事例紹介①

栃木県小山市 駅周辺エリアまちづくりプラン策定プロジェクト

— 透明性を高め、信頼関係を生む情報発信 —



プランを検討する背景・目的

民間と行政が共通のビジョンのもと、
「自分事としてまちづくりに取り組むための指針とする」ことが目的。



my grooveにより目指したこと

ワークショップなど物理的な場への参加が難しい人からも意見をもらう。
分かりやすく全体がまとまった、プロジェクトのブランディングにつながる場となる。



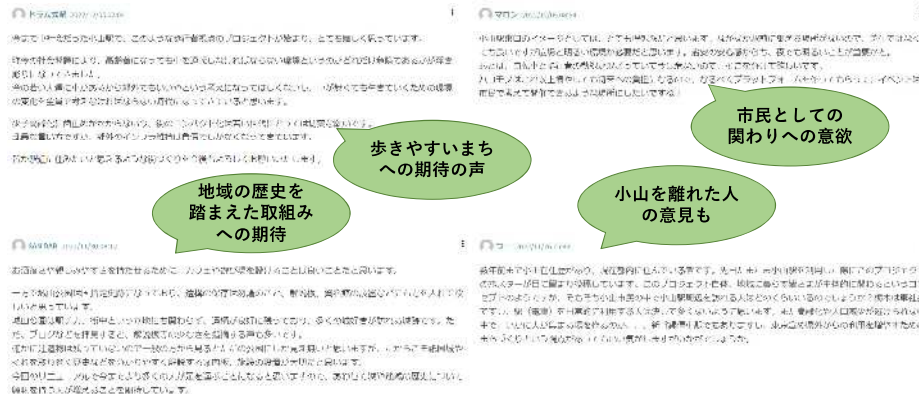
全体の流れをフェーズに分けて情報整理したことで、振り返りと今後の予定把握が容易に。

my groove画面をご紹介します



35

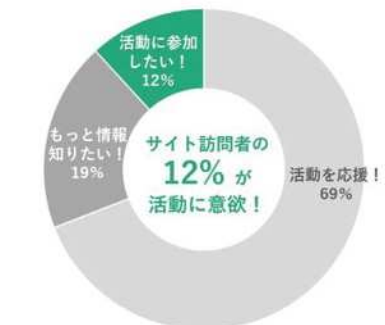
- ・やわらかい素案の段階で意見募集し、集めた意見を反映していく進捗も可視化したことで、取組みを後押しする市民の声が集まった(3週間弱でコメント、リアクション合わせて約700件収集)。
- ・これまで声が届きづらかった声が多く見られた。他の人の意見や考え、過去の情報を読んで、考えをまとめている人が多かった。



特設サイトを利用した市民へのアンケート結果



他の人の意見を知ることができて良かった、みんなのまちへの思いを知れて嬉しい、という声が多く見られた。
ビジョン実行段階への関与意欲については、**サイトを訪問した人については10%程度だったが、会員登録をした人は90%超が今後何らかに関わりたいと回答。**





●自治体の担当職員の声：

- ・ 収集した意見で、見落としていた大事な視点に気づかされた。
- ・ my grooveを用いて、プロセスの透明性を高めることができたのが良かった。

●市民からの反応：

- ・ サイト登録者の92%が策定後の活動へ何らかの形で参加したいと回答。
- ・ 「他の人の意見、思いを知ることができて良かった」という声が多かった。
- ・ また、当初は批判的に捉えていた人が、参加プロセスを通じて前向きに。

小山市の市民向けアンケートでは、なぜ意見投稿を行ったのか？についても調査。行政にとっては、事業の後押しとなる要素と、リスク回避となる要素がある。

事業推進を後押しする層を巻き込む

- ・ とても良い取り組みだと感じ、自分の意見が反映されてほしいと思ったから。
- ・ 自分達がすむ街が住みやすく、そして愛着をもてる街になると良いと思ったから。小山市が先進的な取り組みにチャレンジしていることを応援したいと思ったから。
- ・ 住んでいるからこそその意見が伝われば、そして少しでもその町が暮らしやすくなれば。という思いから。

表に出てきづらいが、事業を後押ししている層を巻き込む

事業推進上のリスクを回避する

- ・ 既に出ていた案意見に賛成できず反対や違う意見があるのを知ってもらいたかった。
- ・ 意見しないと一部の声の大きい方の意見ばかりが市民の声だととられ、多様性がなくなるから。
- ・ プランにやや浮き足だった面を感じたので。

放置すると反対派になりうる人々を早い段階で巻き込む

事例紹介②

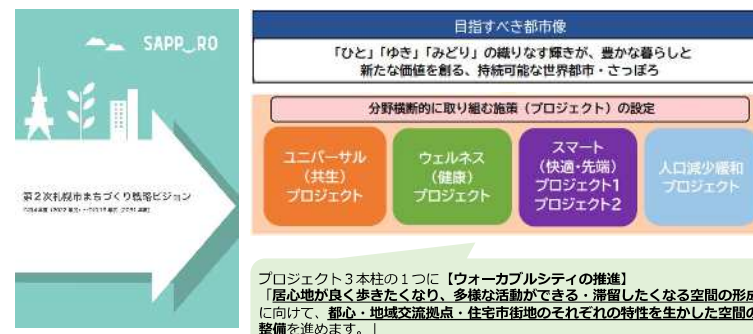
まちを体験してみんなで考えよう！

歩いて楽しい
宮の沢へ



札幌市のウォーカブルシティ推進

- ・ 令和4年度に札幌市の長期総合計画である「第2次札幌市まちづくり戦略ビジョン」が策定
- ・ 重要施策の一つとして「ウォーカブルシティの推進」を掲げ、市長公約にも位置づけられている



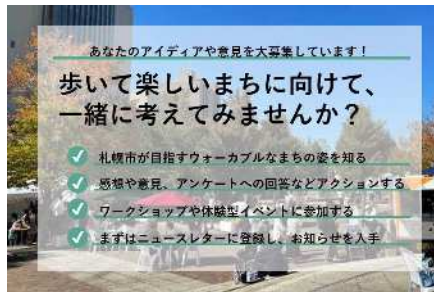
札幌市の長期総合計画（令和4～13年度）

⇒令和7年度末に「（仮称）札幌市ウォーカブルビジョン」を策定予定

「歩きたくなる宮の沢」プロジェクト概要

札幌市では「誰もが生涯健康で、学び、自分らしく活躍できる社会の実現」の一環として、歩きたくなるまち「ウォーカブルシティ」の実現を目指している

「冬でも居心地よく、歩きたくなるまちづくり」にも焦点を当てて、検証活動を行なった



モデル地区でもある宮の沢



一都市空間イメージ図（第2次札幌市まちづくり戦略ビジョンより）

「居心地がよく歩きたくなる宮の沢」未来ビジョンの作成

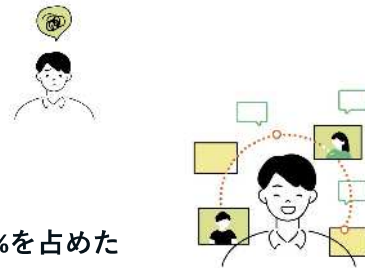
- 地域住民や地元事業者、民間のキープレイヤーたちと一緒にワークショップを開始
- リアルなワークショップとオンラインのデジタルプラットフォームを組み合わせることで実施した



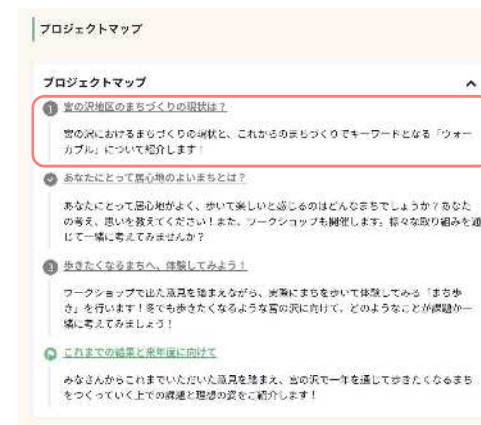
ー第1回ワークショップの様子ー

札幌市が抱えていた課題は？

- 若年層や女性の参加者が少ない
- 継続的な参加者が少ない
- 参加者の世代は20～40代が約76%を占めた
- オンラインワークショップ（2回）へ参加した人:約14%
→my grooveでの意見募集（2回）に回答した人は39%
- オフラインの場に参加するほどではないが、意見を出すのであれば参加できるという、ライトな意欲層の参加率は7倍に！



「歩きたくなる宮の沢」プロジェクト概要



プロジェクト
基礎情報の紹介

事前意見募集

WSの意見募集
当日レポート

完成したビジョン公開

①ワークショップに向けた事前の意見募集での活用



- ワークショップの場で議論をより活性化させるため、**ワークショップ開催前にmy groove内で意見募集を実施。**
- その後ワークショップでも議論し、**最終的に両者で得た意見を合算して整理する形で集計を行った**



②フィールドワークにおける意見募集での活用

まちあるき10のチェックポイントでスマホでアンケート回答！



③地域のキープレイヤーを巻き込む”インタビュー記事”の公開

3名(団体)キープレイヤーへのインタビューを実施し記事を公開。
地域コミュニティ内で参加を促すきっかけになった！



参加の4ステップの仕掛けに！

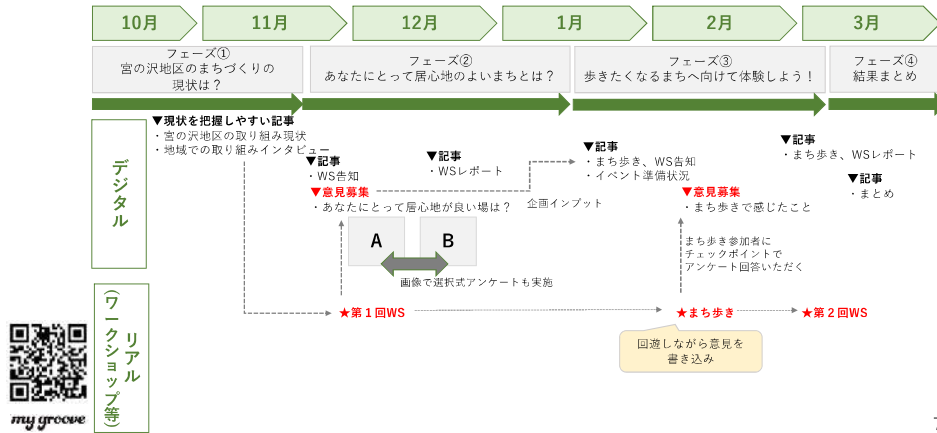
認知
↓
興味関心
↓
理解
↓
参加

まちの人に関心を持ってもらうための手順もポイント！



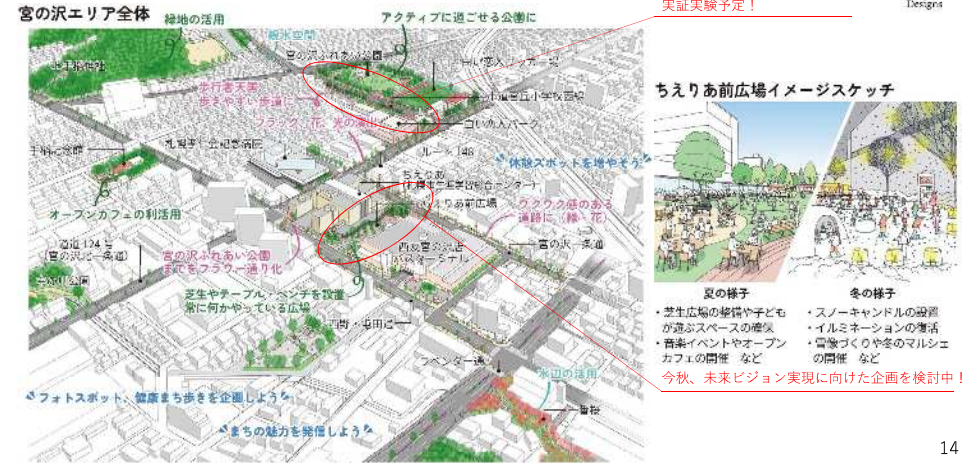
「my groove」活用におけるプロジェクト全体の流れ

デジタルとリアルを連動させた取り組みの流れを、最初にプランニング



7

“居心地が良く、歩きたくなる宮の沢”未来ビジョン



14

NEW! コミュニティ機能をリリース

地域横断での、まちづくりについての学び合いコミュニティ

ウォーカブルなまちづくりを全国で推進する実践者の知見共有・学びの場

まちみち広場

まちみち広場へ気軽に参加できるウォーカブルコミュニティへ

本コミュニティに登録すると、さまざまなweb講座に参加したり、全国のウォーカブル実践者の方と学びや経験をシェアできます！

コミュニティメンバー

取組みの背景

2022年に日本交通計画協会、国交省とで取り組んでいた「マチミチWeb講座」というオンライン勉強会のコミュニティとして立ち上げ。全国でウォーカブルなまちづくりに取り組んでいる、取り組みたい人たちが悩みを共有し、学び合える場。

取組み例

月に1回の勉強会を開催！「公共交通 x ウォーカブル」など。

事例や取り組み内容を共有しあえる場

ウォーカブルの取り組み共有！「やってみた」や事例をシェアしよう

意識変化の階段をのぼり、動き出す人を増やす

様々な人やコトとの関わり・体験を通じて
マチゴトからジブンゴトへ。

